

見出し	地震で心配なこと、困ること				対 策	誰 が			い こ	
						自分	地域	行政	今から	その時
家が壊れる	家のすぐ上の山は崩壊危険区域に指定されていること	家が潰れたら困る	家の上に大木(神社)があり、心配だ	裏山が崩壊しないか心配だ	裏山の崩壊対策は、まず、住民で大丈夫かチェック 心配なら行政など専門家に頼んで調査する					
	山里なので土砂崩れ、土石流が心配だ	家が壊れたらどうしたらよいか	古い家が倒れて、家族が閉じ込められる	津波がきて家が流されないか心配	塀(ブロック、コンクリート共) 建築基準法に基づいて高知県独自の条例を作り、指導を強化する 耐震調査を行う(56以前の建物) 補強工事を行う 補助金の交付を受ける 防潮堤 先の台風で調査をしたが地区別に報告してもらいたい。その上で補強を!					
	防潮堤の損壊、S9年以降の建設で石積み(コンクリート目ツブシ)で強度が心配 波返しは上に乗せたのみ									
火災が怖い	地震で家に閉じ込められた時、火災が怖い	プロパンガスのボンベが家の周りがあるが、心配である!	高齢者が一緒に住んでいます その時は市営住宅の上水道のこと、床下のこと(ママ)	水があふれる	自主防災組織による初期消火 火災に対する日常からの備えや、防災組織での訓練の強化					
障害者、老人が心配	障害者の避難場所に困る	高齢者の避難時間帯にもよるが人手不足	高齢者が心配だ	家の崩壊が心配だ	高齢者、障害者対策は、普段のお付き合いの中で支援体制をつくる  災害弱者に関する情報の共有(地区内)					
自助、共助は!	ケガをした場合の共助、共済の方法が不備	住んでいる所がどれだけ被害が出るのか心配だ	高齢化で後10年したら自助、共助ができるか心配だ	津波で川があふれて怖い	自主防災組織の結成 活動の促進 。交通災害共済的な(各市町村で申し込み :700円/年)、皆で助けあう制度を地震でも作る					
避難路があるか?	水路上のセメントが壊れないか 避難場所に避難できるか心配	道が壊れたら病院に行けなくて困る	土砂崩れで道がふさがれて避難できない	道がふさがれた時、病人やけが人を病院に運べない	避難訓練の実施 避難路の周知 行政と自主防災組織の連携で、調査の徹底と対策に取り組む					
	避難路	橋が落ちて避難路がふさがれる	ブロックが壊れたらどのようにするか	避難路の確保が? 都計(S34.5)をしているが道路が狭い(4m) 塀の倒壊や水路の破壊等	避難通路 より安全な通路を点検して経路を検討する 道が壊れたら、舟でいける様にする					
	情報を正確に伝えられるか?	地震の100秒の揺れに耐え、無事避難できるか心配	地震でダムが崩壊しないか心配	道路に面したブロック壁が崩壊しないか心配						
地震の被害がわからない	家族の安否確認がすぐにできるか心配	通信が途絶えて助けが呼べない	サイレン、津波情報が早く伝わること	川の縁の家で2階建になり、階段があり下に降りていくことが出来ない 又、足が悪いので困ります	避難場所が分からない方には自主防災組織の防災訓練や勉強会を強化する					
避難場所はどこ?	避難場所にいけないかわからない	避難場所がわからない	母が市内の病院に長期入院中、寝たきりなので病院に行けるか心配	隆起すると云われる室戸は、どういった問題が発生するか分からない	病院、学校などは特別な情報システムを構築するよう行政、企業で取り組みます					
遠方の家族の安否は?										
企業の持ち物責任	家の近くにトランスのある電柱があり心配である				関係する企業との連携で、安全な町づくりに取り組む(例えば、トランスなどは住家の近くにおかない)					

